

講演

自己効力アップのための指導上の工夫 ～栄養士の立場から～

湯布院厚生年金病院 栄養部

福山 晶子

【はじめに】

湯布院厚生年金病院は、由布市湯布院町の自然豊かなまちの一角に所在し、一般 51 床、亜急性期 60 床、回復期 180 床から編成された、291 床の病院です。脳卒中や整形外科の患者さんの高度リハビリテーションと心臓病の入院リハビリテーションが行える施設です。

【栄養食事指導の実際】

糖尿病患者との関わりは、外来栄養指導や病棟栄養指導、糖尿病患者会などがあります。

当院では個人指導（外来・病棟）に実食型栄養食事指導を平成 23 年 5 月より取り入れています。実食型を取り入れたメリットとして、本人や調理をする家族が実際に食事を体験することで、日頃の食事の量や内容と比較でき、自らが改善面に気がつき、実行可能な食事内容がわかり意欲に繋がります。

また、集団指導では、糖尿病患者会「山ぼうしの会」を平成 12 年から年 2 回開催しています。糖尿病に関する知識の習得と患者相互の自己啓発並びに親睦を図ることにより治療効果を促進させることを目的とし、糖尿病患者とその家族及び糖尿病医師と看護師・栄養士・薬剤師・検査技師・体操訓練士などの正規会員と糖尿病に関心のあるボランティアスタッフ（当院職員）により構成されています。今年度は、7 月 3 日に大分農業公園にて患者参加型の料理カードを用いたランチバイキング方式で患者教育を実施しました。

これら体験型の栄養指導について、実際の指導場面を通して報告します。

【今後の課題】

在宅療養や入院中の食事での患者のモチベーションを維持していくために、栄養士としてどのように携わっていけるか、また栄養士の役割を明確にして、多職種間で患者情報を共有でき、治療効果の上がる栄養食事指導を実践していきたいと思います。